




こんな風に使っています。

DAM シミュレーター

を使って看護師のレベルをアップ!

事例紹介:  京都大学医学部附属病院
総合臨床教育・研修センター
WEB ▶▶ <https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/>

受講者の対象

院内の看護師 / 医師

講師 受講者数

メイン講師 1名 10人から20人
サブ講師 5名

手順1 必要物品の準備

- DAMシミュレーター トレーニングモデル
- 口喉鏡
- スタイレット
- シリンジ
- マギル鉗子
- 聴診器
- 挿管チューブ
- 潤滑剤
- バックバルブマスク
- 咬合阻止器
- 固定用テープ

受講者2-3人につき1セット用意しましょう

目的

院内すべての看護師が気管挿管を理解し、適切な介助ができるようになる。
(気管挿管に使う器具や、投与する可能性のある薬剤も含む)

講習会を始めたきっかけは?

病院では、気管挿管の知識について看護師によって差があるため、夜間などのスタッフが少なくなるときに適切な処置を施せない場合が見られました。看護師間の知識のギャップを無くし、いつでもALSを的確に成功させられるようにするために、このトレーニングを始めました。

レイアウト例



知っている? トレーニングのコツ

POINT まずは教えずにトライさせる

学習者の持っている知識を引き出すため、最初から何もかも教えないことが大切です。もし、最初に学習者に手順を教えてしまうと、トレーニングの最中に自分で考えなくなってしまいます。

学習者が戸惑っているときは、具体的な質問を投げかけて、少しずつ正解に導きます。

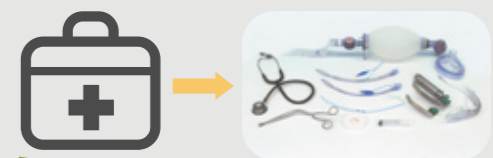
POINT 講師を集める方法

メインの講師は気管挿管のエキスパートである医師に担当してもらいます。京都大学では、サブ講師として医学部生が講師の補助をします。CPRを普及させるサークルの医学生や、救急救命学科の学生たちがこの講習の支援をしてくれています。

学習者が困ったときには、彼らにアドバイスをもらうことができますし、「人に教える」ということで、彼ら自身もより深い知識や技術を身につけることができます。

手順2 トレーニングの実施

下記の例は約1時間のトレーニングを想定しています。

<p>気管挿管に関する知識の確認</p>	<p>20分</p>	<p>気管挿管の状況を再現したロールプレイを見せてから、学習者に質問を投げかけます。</p> <p>POINT</p> <p>1. 患者が苦しんでいて、じっとすることができない。(講師は「苦しい、苦しい」と叫び、患者を演じます)</p> <p>Q: あなたなら、どうしますか? A: 鎮静剤を投与します。</p> <p>→ 鎮静剤の種類と量を明らかにします。</p> <p>2. 患者の顎が強張り、開口が難しい場合はどうすべきか?(講師は、DAMシミュレーターの顎と口が全く動かせないような演技をします)</p> <p>Q: あなたなら、どうしますか? A: 筋弛緩剤を投与します。</p> <p>→ 筋弛緩剤の種類と量を明らかにします。</p> <p>薬剤とその使い方を理解する</p> <p>ここでは、学習者が薬剤についてだけでなく、使用する患者の状況もセットで理解していることを確認します。</p> 
<p>器具の準備</p>	<p>10分</p>	<p>あらかじめ、色々な器具(気管挿管に関係ないものも含む)を準備して、そこから学習者に必要な器具を選んでもらいます。</p> <p>器具の役割と使う意味を考えさせながら、一つずつ器具の説明をしていきます。</p> <p>POINT</p> <p>実際に、器具を手にとってもらいましょう。</p> 
<p>気管挿管トレーニング</p>	<p>25分</p>	<p>1. スニффイング・ポジション -必要であれば、頭の下に枕を敷きます。</p> <p>POINT</p> <p>2-3人でローテーションしながらトレーニング</p> <p>気管挿管のトレーニングでは、術者と介助者の役割をローテーションして互いの目線から手技を学びます。モデルを使って実際に手技をすることで、適切な介助の仕方・タイミングを理解することができるので、それぞれ何度か経験することが大切です。</p> <p>2. チューブの挿入 -気管へチューブを挿入できたか、聴診器で確認をします。 -片肺挿管や食道挿管の失敗例も提示します。</p> <p>3. チューブの固定 -テープを使ってチューブを口角に固定します。</p>
<p>まとめ</p>	<p>5分</p>	<p>学習者からの質問を受け付け、疑問を解決しましょう。</p> 